



前線の塹壕の中で
迫撃砲の砲弾の準備をする兵士たち
(2022年9月、ボサード・ボクロフスケ)



マッチングアプリで知り合った女性と
地下壕でチャットする兵士レックス
(2022年9月、ルーチ)



連日ミサイルが飛び、街の中心広場は
立ち入りを制限する検問所が設置されていた
(2022年10月、ミコライウ)



道路沿いの防風林を狙った砲弾が
畑に着弾し、土煙を上げる
(2022年10月、ヘルソン北部)



動物園にて。クマの檻の前に突き刺さったロケット弾
(2022年9月、ミコライウ)



独立記念日に水遊びをする母子。遠くで空襲警報が鳴っていた
(2022年8月、ミコライウ)

YAMAGUCHI / SHUNAN
2026.4.25-5.10

HOKKAIDO / HIGASHIKAWA
2027.1.8-1.26

主催 / 周南市文化振興財団

共催 / **KRY** 山口放送

後援 / 読売新聞社

制作 / 林忠彦賞事務局(周南市美術博物館)

<http://hayashi-award.com/>



第34回林忠彦賞 受賞記念写真展

XEPCOH

ヘルソン——ミサイルの降る夜に

佐々木 康

SASAKI KO

第34回林忠彦賞は

佐々木康氏の写真集・写真展

「XEPCOH ヘルソン—ミサイルの降る夜に」に
決定しました。(詳細は中ページへ)

授賞式は周南市で行います

34
HAYASHI
TADAHIKO
AWARD

林忠彦賞はこんな賞

— 社会は心を撃つ写真をさがしています —

山口県周南市出身の写真家林忠彦の名を冠した「林忠彦賞」は、林忠彦が「太宰治」「坂口安吾」などの作品で戦後の写真界に颯爽と躍り出た、最もエネルギー溢る時代に照準を合わせ、「社会が求める、その時代を一番象徴する写真を選び出そう」をコンセプトとしています。1991年(平成3)故郷である周南市と周南市文化振興財団が創設、今回で34回を数えます。

選考委員

敬称略・五十音順

大石 芳野 写真家(選考委員長)
大西 成明 写真家
笠原美智子 長野県立美術館館長
小林 紀晴 写真家
有田 順一 周南市美術博物館館長



林忠彦

Hayashi Tadahiko
[1918-1990]

山口県周南市出身。報道カメラマンとしてスタートし、人物写真、風景写真を撮り続けました。銀座のバー、ルパンで撮影した「太宰治」、原稿用紙に埋もれた「坂口安吾」、戦後の東京の姿をとらえた「カストリ時代」などが知られています。一方で秋山庄太郎らと二科会に写真部を創設するなどアマチュア写真家の育成にも力を注ぎ、生涯を通じて写真文化の発展に尽力しました。



左「太宰治」
右上「坂口安吾」
右下「煙草をくゆらす戦災孤児」
(カストリ時代より)

第34回林忠彦賞受賞作

「XEPCOH ヘルソン—ミサイルの降る夜に」

第34回林忠彦賞は、83点の応募作品の中から厳正な審査の結果、

佐々木康さんの「XEPCOH ヘルソン—ミサイルの降る夜に」に決定しました。

「ヘルソン」とは、2022年2月に始まったロシアによるウクライナへの軍事侵攻により占領されていたウクライナ南部に位置する州と州都の名前です。佐々木さんにとっては、多くの人がいつか戻るべき故郷の名、戦地から無事を祈って待つ家族の元へ帰る旅を象徴する場所でもあります。佐々木さんは2022年の4ヶ月と2023年の3ヶ月をウクライナで暮らしました。毎晩のようにミサイルが降る中、友人と互いの無事確かめるようにチャットを交わし、やがてその友人を介して兵士たちと時間をともにするようになりました。その時期に撮影した写真や友人、兵士たちとのチャットの内容をまとめたのがこの写真集です。地平線まで広がる小麦、ひまわり畑。美しいウクライナの風景。そのなかで、人々が食べ、眠り、笑い、泣き、祈り、戦い、逃げ、死に、そして生まれ、命は繰り返されてきました。私たちが生きる日常のすぐ先に戦争があり、日常と非日常が交錯する中で、人々が逞しく生きていること。戦争が非日常ではないことを改めて考えさせられる作品です。

選考委員講評より

ウクライナが攻撃され、しかも、いたる地域で人びとがロシアの無謀さに苦しんでいる。そのひとつがヘルソンだということだろう。彼が現地の人たちと共に苦しみ、悲しみながら撮影したことが写真集から伝わってくる。この作品は、戦争を人びとの日常の中で捉えている。戦争は命を奪うばかりか、住まいも文化も破壊してしまうということを写真の力で伝えている。佐々木康さんは肝の据わった確かなフォトジャーナリストだと思う。

第34回 林忠彦賞 最終候補作品 10点

(敬称略・五十音順)

- 安藤 瑠美「TOKYO NUDE 100」 ■岩波 友紀「Blue Persimmons」
- 公文 健太郎「Dropped Water」「Dropped Fruit」 ■小澤 太一「回」
- 佐々木 康「XEPCOH ヘルソン—ミサイルの降る夜に」
- 鈴木 一雄「一にっぽん列島—いのちの聲」 ■竹沢 うるま「Boundary | 中心」
- 時津 剛「空気」 ■野口 健吾「庵の人々」 ■吉永 陽一「東京ぐるぐる」



写真集
「XEPCOH
ヘルソン—ミサイルの降る夜に」



佐々木康 プロフィール

1972年生まれ。フォトジャーナリスト。米紙「ニューヨーク・タイムズ」をはじめ欧米各国の新聞や雑誌の依頼を受け、20年にわたり報道の現場で写真を撮り続けている。雑誌「クーリエ・ジャポン」では2005年の創刊から写真編集者を務めた。2024年には世界報道写真コンテスト、アジア部門の審査員。撮影していない時には石油プラント工場の現場などで作業員として働く。

第34回林忠彦賞の授賞式は 周南市で行います!

日時 4月25日(土)14:00~16:00

会場 ホテルサンルート徳山 ハーバースクエア
(山口県周南市薬港町8-33)

- 第一部 授賞式
 - 第二部 講演会「古層を掘る」小林紀晴氏(林忠彦賞選考委員)
- ※詳しくはホームページをご覧ください。

参加ご希望の方は電話でお申し込みください。
周南市美術博物館 (0834-22-8880)

どなたでも
ご参加
いただけます

林忠彦賞
ホームページ



受賞記念写真展へ
行ってみよう。

1

周南展

— 林忠彦の生誕地にある — 周南市美術博物館

2026年

4月25日(土)→5月10日(日)

4月27日(月)、5月7日(木)休館

9:30~17:00(入館は16:30まで)

◆会期中は林忠彦記念室を含む常設展も
無料でご覧いただけます。

山口県周南市花島町10-16 TEL (0834)22-8880
http://s-bunka.jp/bihaku/

観覧
無料

【佐々木康氏トークショー】

4月26日(日) 10:30~

作品についてお話を伺います。

話し手: 佐々木康氏

聞き手: 有田順一(周南市美術博物館館長 林忠彦賞選考委員)

会場/周南市美術博物館 講座室

定員/40名(先着順)

電話でお申し込みください(0834-22-8880)

参加
無料

2

東川展

写真の町 東川町文化ギャラリー

2027年

1月8日(金)→1月26日(火)

会期中無休

10:00~17:00

観覧料/100円 中学生以下無料

北海道上川郡東川町東町1-19-8

TEL (0166)82-4700

https://higashikawa-town.jp/bunkagallery

※最新の情報はホームページでご確認ください。